



2021年3月24日

各位

会社名 株式会社ゼネラル・オイスター
代表者名 代表取締役社長 吉田 秀則
代表取締役 CEO 丹野 裕介
(コード番号：3224 東証マザーズ)

問合せ先 経営管理本部 芝田 茂樹
執行役員 本部長

(TEL. 03-6667-6606)

業績予想に関するお知らせ

「未定」としておりました2021年3月期通期連結業績予想につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期 通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株 主に帰属 する当期 純利益 (百万円)	1株当たり当期 純利益 (円)
前回発表予想 (A)	未定	未定	未定	未定	未定
今回修正予想 (B)	2,319	△349	△355	△223	△76.10
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	3,579	△146	△157	△106	△38.50

2. 業績予想公表の理由

2021年3月期の通期連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大及びその収束が当社グループに与える影響について、合理的に算定することが困難であったため「未定」とさせて頂いております。しかしながら、期間の経過等により、合理的な業績予想の算定が可能となりましたので、開示いたします。

第1四半期は、第一回目の緊急事態宣言により休業などもあり、売上が大幅に落ち込みましたが、第2四半期以降、売上也順調に回復傾向にありました。しかしながら、コロナ禍の第2波、第3波の再拡大の影響等により、多くの店舗に時短要請が出された上、2021年1月には第二回目の緊急事態宣言が再度発令される等の影響により、売上が大きく減少しております。

利益面につきましては、原価率においてはほぼ想定内にてコントロールできており、キャッシュアウト削減の観点から店舗及び、全国の拠点（センターや加工工場等）で機動的

な稼働体制へ転換するなど、固定費削減努力を継続的に実施することで、従来と比較し少ない売上収益でも利益を出せる体制が構築出来つつあります。しかしながら、コロナ禍の第3波の再拡大の影響及び2021年1月の緊急事態宣言による売上収益の減少にともなう利益の減少をカバーしきれず、2021年3月期第3四半期の営業損失△258百万円から赤字拡大の見込みとなりました。

一方、引き続きコロナ禍の再拡大による時短要請で売上は左右されるものの、損益分岐点を下げることによる筋肉質なコスト構造への転換によって、第3四半期会計期間（2020年10月1日～2020年12月31日）においては黒字化を達成することができました。また、残りの第4四半期会計期間（2021年1月1日～2021年3月31日）においても、継続的固定費削減等により、引き続き通期赤字幅の縮小に取り組んでまいります。

（注）本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上